

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要票

作成日 平成 20 年 11 月 19 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3670101504
法人名	有限会社 たまきメディカルサポート
事業所名	グループホームふれあい
所在地	徳島県徳島市国府町和田字居内4番地2 (電話) 088-642-8430

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 20 年 11 月 14 日

【情報提供票より】(平成 20 年 10 月 1 日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 24 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤:12人、常勤換算:ユニット① 6人、ユニット② 6人	

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階 部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,100 円	その他の経費(月額)	水光熱費:10,200円、その他:実費	
敷金	有( ) 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円	有の場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	235 円	昼食	355 円
	夕食	355 円	おやつ	105 円
	または1日当たり		945 円	

## (4) 利用者の概要 (平成 20 年 10 月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名	
要介護1	2 名	要介護2	8 名			
要介護3	6 名	要介護4	1 名			
要介護5	0 名	要支援2	1 名			
年齢	平均	87 歳	最低	73 歳	最高	98 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	田疇病院、たまき青空クリニック、盛歯科
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は文化財保護に取り組んでいる地域の表通りに面している。朝夕の挨拶を交わしたり、町内清掃、祭りなどの地元行事にも積極的に参加することを通じて地元の人々から声かけや応援をしてもらっている。母体法人クリニックと医療連携体制がとられ、看護師の来訪による体調相談や医療の24時間対応が可能であり、利用者や家族の安心感が得られている。職員は利用者の生活リズムやペースを大切に、利用者の経験や特技を活かして、できること・できないことを見極めながら、利用者や支えあい喜怒哀楽をともにした生活を送っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「運営推進会議を活かした取り組み」について、H19年11月から5回の開催になっている。H20年4月から2か月に1回開催しており、改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員間で評価項目ごとに話し合い、自己評価を行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は利用者や家族、地域住民、地域包括支援センター職員、事業所職員で構成され、2か月に1回開催されている。事業所からの制度改正や活動の報告、行事開催協力の依頼等のほか、参加者から質問や意見交換が行われ、避難訓練や地域活動参加など、サービス向上に向けた取り組みがされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書への相談窓口の記載や意見箱の設置がされている。面会時や家族会等では相談や意見が出やすいように問いかけや声かけをしている。意見等は課題解決に向けた話し合いが行われ、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、清掃活動や祭りなど、地元の行事に参加している。商店での買い物、散歩時の挨拶など地元の人々との交流や馴染みの関係づくりに努め、地元の方々からも事業所への協力や利用者への声かけが行われるなど、地域との連携が図られている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を全職員で確認し「信頼され、愛される事業所づくりに努めます」など、2項目の事業所独自の理念がつけられている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者や家族、地元の人々など関係する人々とのふれあいを大切にしながら、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、清掃活動や祭りなどの町内行事に参加するとともに、近所商店での買い物、散歩時の挨拶を交わすなど、地元の人々との交流や馴染みの関係づくりに努め、近所の方々からも気軽に声かけられている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は自己評価及び外部評価の意義を理解し、項目ごとに具体的改善策について話し合っている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者や家族、地域住民、地域包括支援センター職員、事業所職員で構成され、2か月に1回開催されている。事業所からの制度改正や活動の報告、行事開催協力の依頼等のほか、参加者から質問や意見交換が行われ、避難訓練や地域活動参加など、サービス向上に向けた取り組みがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月、市の担当窓口を訪問し、所定報告書の提出や状況報告をしているほか、町の窓口で事業所パンフレットや行事案内等を置いてもらうなど、事業所の考え方や実態を知ってもらう取り組みをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時や家族会等で利用者の健康状態や預かり金、暮らしぶり等を伝えるとともに、毎月の行事案内や季節ごとのふれあい便り等により、個別の報告がされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や家族会等で相談や意見が気軽に出来るように声かけを行っている。苦情・相談記録があり、課題解決の話し合いが行われ運営に反映されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はできるだけ行わないようにしており、やむを得ないときは引継ぎを十分行い、職員間で応援し合っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は毎月1回、関連法人内研修に参加するほか、年間研修計画が立てられ習熟度に応じて受講している。技術向上や資格取得への取り組み等が進められている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、他の事業所と事例検討や相互訪問をして情報交換を行っている。また協会の相互評価事業に参加し、他事業所の工夫点や取り組みを共有し、ケアへの参考になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や体験入所でのレクリエーションと一緒に食事をするなどして雰囲気を知ってもらうなど、家族の協力を得ながら、本人が納得の上で利用できるよう工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の体験や昔話を聞かせてもらう等、一人ひとりの持つ経験や特技など教わりながら、支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス計画書の「利用者意向欄」に、利用者の思いを傾聴してできるだけ本人の言葉で記入し、日々の言動や関わりの中から、希望や悩みなどを把握するよう努め、職員間で共有しながら本人本位の支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員間で意見を出し合い、利用者一人ひとりの生活リズムや思い、要望を反映させた個別のプランが作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	体調の変化や利用者、家族の意向を聞きながら、定期的及び随時に介護計画の見直しが行われ、本人、家族の理解が得られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居にあたり、体験入所の受け入れや他のサービス利用相談をしている。また医療連携体制を活かした看護師の来訪による健康相談などの柔軟な支援が行われている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病状の悪化がないよう、早目の対応を心がけ、急な体調変化時には通院の介助をしている。また本人及び家族の希望するかかりつけ医への適切な受診ができるよう支援し、受診結果は家族、職員で共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応の指針が示され、常にコミュニケーションを図りながら、本人・家族、医師、看護師等関係者で終末期に向けた方針が共有されている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に利用者一人ひとりに気を配り、プライバシーを損ねないよう介助している。毎日の申し送りや実習生の受け入れ時でもプライバシー確保の大切さを話し合い、個人情報の取り扱いへの意識づけを図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活時間の流れを尊重して支援するように心がけ、その人らしい楽しみ、望んでいることが実現できるよう、柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	固いものが苦手な方には声をかけて小さく刻んだり、すりおろしたりして食べやすくし、職員と一緒にゆっくり会話を楽しみながら食事ができるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日中だけでなく、夜間入浴も行われ、入浴を拒むときには足浴をすすめるなど、一人ひとりのタイミングや希望に合わせて入浴できるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の能力に合わせた役割分担表が作成され、楽しみごとや出番、気晴らし等を見いだせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には外食やドライブ、買い物、散歩などで戸外に出かけ、気分転換や季節の移り変わりが感じられるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないで、利用者の活動をさりげなく把握して見守っている。利用者が外出しようとする時には、散歩や買い物など気分転換が図れる支援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のマニュアル(緊急連絡網、消防、避難等)があり、市消防署の協力を得た訓練が年2回実施されている。訓練時には近所に案内をして協力を依頼するなど、災害時に地元の協力が得られるよう働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人が運営する他の事業所の栄養士の指導のもと、栄養バランスを考慮した献立と水分チェック表による水分確保ができています。また病歴、体調など一人ひとりの状態に応じた支援をしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には鉢花が置かれ、日当たりの良い食堂には隣接する台所から、利用者と一緒に調理する音や会話が聞こえ、食卓には季節の花が飾られている。ソファーでは他の利用者がくつろいでいる。浴室、トイレ等も暖かく、清潔であり、居心地よく暮らせることへの気配りがされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやテレビ、家族の写真、時計など思い思いに好みのものが持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるよう、それぞれの居室づくりがされている。		